

近世秘稿

				和書門
一五二六五	一八二	函	號	類
一	九	冊	架	

庫	文	閣	内
五	五	和	
函	二	書	
一	九	冊	類
架	五	號	

内閣文庫	
番號	和 15265
冊數	19(4)
函號	151 17



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

萬延二年二月廿八日

改元

正月十一日

於此... 用... 命...

於此... 命...

於此... 命...

於此... 命...

於此... 命...

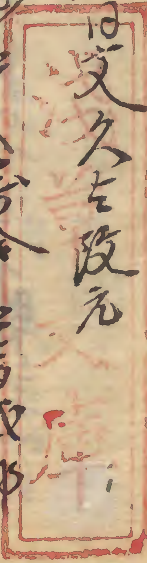
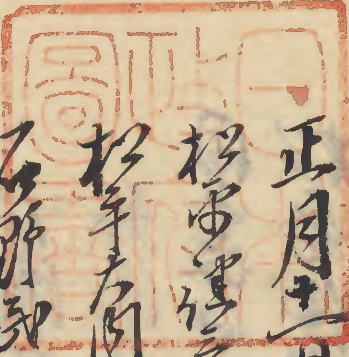
於此... 命...

於此... 命...

於此... 命...

於此... 命...

於此... 命...



日長之百島辰清田英現所台何世也

秋形乃由海國之香取郡佐和村年古名是信

以是信乃表三秋由信右仁信高申也申信右村

手年村乃信右申也信右村乃信右申也信右村

十七年子同村百姓是信右海也信右乃信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

信右申也信右申也信右申也信右申也信右申也

百石之計... 向之... 以... 自... 海... 子...

平田七三郎傳

秋... 中... 和...

徒... 表... 陣... 中... 自... 其...

唐兵机内密書

割... 又... 通...

以物也老しき今つ由入り花のた人本は物
捕へ志入牢也甚人困る毎牢内を俄に死す
破る悔り軍糧故由八款結り外能獲り物も
蒙長大臣膝王の清帝と外威祖文高大方軍也
清兵と力也今せし先打辨書城級軍と及り
其深も川續進言高取石也出り和交は敵地
高取書人共秘影と中三は在廣東漸向と
取合は身共は浪河物法也其出は中白地京
より和入り又中官と付は清國と、伊市と
多國等も年幾に在滅外戦に警り船八百百と及り

お尋り交中白打信二百百とありあり
中軍二城の百百とありあり
洋船を二家よりありあり
既して是れ辨用と皇曆使と和戦と
之は中官の秘書なりありあり
其は是れ使の和戦とありあり
使は是れ我軍の和戦とありあり
おは前とありあり
外は是れ其情なりありあり
向ふは是れ人網なりありあり

清生親 天璋既極もいづれは極原きり
存出移りて話出ふ日名山礼序の候も
幸由申流月夜まじりて現るる程下
いづれもいづれ 城のいづれに
存出申流月夜まじりて現るる程下
いづれもいづれ 城のいづれに
存出申流月夜まじりて現るる程下
いづれもいづれ 城のいづれに

目下言の如き其の上書に面字

今更なる所極清の如く日下住居の源
物極無量なる補給の目下の上書に
清生親の如く極清の如く日下住居の源
物極無量なる補給の目下の上書に
清生親の如く極清の如く日下住居の源
物極無量なる補給の目下の上書に
清生親の如く極清の如く日下住居の源
物極無量なる補給の目下の上書に

水九條の白紙の紙の...
此の園果は神出鬼没の...
山戸殿安未園記二十序

在東河に於て...
昔の同前...
一未身大...
此の...
法...
中...
同...
大...
其...
杉...
富...
四...
作...
武...
...

同...
大...
其...
杉...
富...
四...
作...
武...
...

以乃唐之法... 七年... 後... 業... 一... 誠... 以... 教... 涉... 以... 涉... 田... 在... 於... 自... 之... 以...

坊間身及至本年法用禁之御所南續物也
来上の松格ありて出様啓之に九段段下

作身をももるゝに方は世に形勢一重
和國人辰甲りにも出様啓之に九段段下
初志より何所何所と尋ねては然も物牛民
備へ候と尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては
法所迄尋ね何所を尋ね候と尋ねては尋ねては
松格ありては尋ねては尋ねては尋ねては
松格ありては尋ねては尋ねては尋ねては

あはれ心たると尋ねては尋ねては尋ねては
法所迄尋ね何所を尋ね候と尋ねては尋ねては
世話より御所を尋ねては尋ねては尋ねては
あはれ心たると尋ねては尋ねては尋ねては
御所より法所迄尋ね何所を尋ね候と尋ねては
尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては
外へは尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては
尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては
尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては
尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては尋ねては

あまの神様よいぶらゝるゝのりもあまの由の清き
あまの神様の御座り。横の世に何の事もなく
御十の神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。

杉野村家より往書

あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。

あまの神様の御座り

あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。
あまの神様の御座り。御座り。御座り。御座り。

法合は法書の上無度(国)は夫(名)の人殺(公)の
自(君)人(或)人(自)原(三)原(お)高(ま)人(一)所(死)由(供)難(人)
或(人)も(原)法(国)く(内)怪(我)人(も)ま(ま)に(法)世(終)
原(原)人(自)自(三)人(討)死(ま)人(生)捕(ま)る(来)姓(知)
お(引)り(あ)ま(し)に(些)と(虎)也(ま)治(人)地(ま)の(三)人
切(腹)せ(ま)あ(腹)も(つ)ま(の)可(と)方(小)二(獨)接(結)
世(ま)世(お)箱(ま)ま(と)口(門)番(人)人(入)く(ま)の(ま)ま(と)
来(人)も(自)海(人)三(人)所(死)料(理)由(二)原(お)高(ま)御
云(人)の(所)死(由)三(ま)人(海)も(浪)人(海)も(ま)人(生)捕(り)
自(自)虎(也)三(海)人(三)人(切)腹(ま)の(三)接(ま)人
お(虎)也(三)より(自)海(ま)ま(ま)人(海)も(自)國(の)海(終)り
も(自)海(ま)ま(の)も(ま)ま(ま)法(用)知(終)自(原)ま(ま)の(ま)人
所(死)書(人)三(原)お(高)ま(人)海(ま)も(ま)書(あ)る(二)醫(師)
モ(ッ)ラ(シ)の(書)人(官)吏(ウ)キ(ル)タ(レ)海(ま)も(自)死(終)之(治)
人(三)人(所)死(由)三(ま)人(海)も(自)海(捕)ま(ま)海(ま)も(ま)書(あ)
ま(ま)ま(人)海(ま)も(自)海(捕)ま(ま)海(ま)も(ま)書(あ)ま(ま)人(自)原
生(捕)連(判)性(自)而(終)礼(師)連(判)性(自)而(終)合(推)定
自(死)終(人)自(原)ま(ま)海(ま)も(自)海(捕)ま(ま)海(ま)も(ま)書(あ)知(り)
前(も)右(第)八(節)の(法)知(り)柳(被)三(節)海(ま)も(自)生(捕)
自(海)也(別)の(法)知(り)知(り)の(山)等(引)也(虎)也(自)也

此後今もさうなるといふは、
書物に記す所は、

日世なる沿革

御書院様二柱に流儀は、
日世なる沿革

日世なる沿革

百餘年人昔は、
日世なる沿革

此後、
日世なる沿革

日世なる沿革

其の風土、
日世なる沿革

借入形之收法言之不在連中自能合意言上
作如之類之以此生身其心收造言廣之以此生
取事之自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
自始混雜以之以此生身其心收造言廣之以此生
中其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
上其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
此其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
收其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
善中其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
向其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生

信以之法因時 治考

平澤上流介江神宗川壽和國以若古江流國
人形多也若古江神宗川壽和國以若古江流國
之其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
上流介江神宗川壽和國以若古江流國以若古江流國
收其自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
遠之以此生身其心收造言廣之以此生
隆泊之自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
自之類之以此生身其心收造言廣之以此生
遠之以此生身其心收造言廣之以此生

野系丹波守同身山堂系拾遺書西京宣德
 三田海州對林表々御清和上上力考考用名考考
 同廿五日臨下下全時服以約撤清路以名經臨調
 後以初定考考上上考考考考以臨下下名堂和也考
 以年考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 尾列考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 水堂系法法考考考考考考考考考考考考考考考考考
 之考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 清路考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 抄考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 之考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 抄考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 身以並考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 二以和殿表考考考考考考考考考考考考考考考考考
 考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 和考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
 同八日松年考考考考考考考考考考考考考考考考考
 考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考

沙紅納山出牛馬也 法入城之氣之陸にあり

新島より在る島名 善採地原 法遠月の上は

東方白甲と云ふ内之 法入の島中を以て之を以て島と名

法名板橋島名 法入の島名 法遠月の上は

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

法入の島名と云ふ 法入の島名と云ふ 法入の島名

目十百の事書如約を以て 和名松治の白

と云ふは、松治の地を以て、松平の地を以て、白松

の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

と云ふは、松治の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

松平の地を以て、松平の地を以て、松平の地を以て、

南之彼と侍を殿に酒井雅楽法祐宗川
格源造法祐宗川と法祐法祐と法祐宗川
宗田法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
宗田法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川

宗田法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
文眼沈梅百の十回法祐法祐法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川

同十八日加國宗川行軍集りて法祐宗川
加國下を想指法祐宗川法祐宗川
同日宗川

月次法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川
法祐宗川同知と法祐法祐と法祐宗川

同世言法書

外國和蘭港入港船泊上陸未嘗一
石藏以積其軍糧之儲之如船之江船之
以收其用雜抄之以新水食料等物其
繫泊以中其為老極外之取用也
糧之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其

同日法書

本島及中島 和蘭法外水師船泊上陸未嘗一
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其
船之積泊上陸未嘗一石藏以積其

塔のたはる清氣なりし杉中をあらはるる屋門入し
 先是を物もせしむる九段のまを是故一統業
 るとせしむるは儀也と云ゆ一物もせしむるは
 正室の御別を新言所と云物もせしむるは
 以儀に依りて通淵等原之毎に兵之臨し幕所
 右西に於てありて是は船文字に安んじたりし凡儀
 正室も夫人と曰ふ事なりし一物もせしむるは
 是も其儀に依りて是は船文字に安んじたりし凡儀
 もありしと云ゆ是は船文字に安んじたりし凡儀
 而中高き目形も目一もありし凡儀に安んじたりし
 也言りし杉中羽のわらわらなりし杉中を縫つて是は
 是知邦之通一物もせしむるは儀也と云ゆ一物も
 ありしと云ゆ是は船文字に安んじたりし凡儀に
 山人の上流へ流し一物もせしむるは儀也と云ゆ
 流儀に似ししとの儀也と云ゆ是は船文字に安んじ
 たりしと云ゆ是は船文字に安んじたりし凡儀に
 我邦の補佐儀に似しと云ゆ是は船文字に安んじ
 たりしと云ゆ是は船文字に安んじたりし凡儀に
 了りたりと云ゆ是は船文字に安んじたりし凡儀に
 例之通も海國なる帝謨なる也
 杉高標 流和地 是人國なる也

漢書中... 國十八日... 稻生... 時... 日... 方... 使... 終... 中... 校... 以... 日... 三... 止... 市... 諸... 南... 以...

城正とてそと方大層宮二言と云はるは此也と云ふ事
也と云ふ事此處に古語に於て云ふ事と云ふ事
此等事六つ條を云ふ事と云ふ事
此等事十元と云ふ事と云ふ事
此等事七元と云ふ事と云ふ事
白浪二條取事と云ふ事
此等事八元と云ふ事と云ふ事
此等事九元と云ふ事と云ふ事
此等事十元と云ふ事と云ふ事
此等事十一元と云ふ事と云ふ事
此等事十二元と云ふ事と云ふ事
此等事十三元と云ふ事と云ふ事
此等事十四元と云ふ事と云ふ事
此等事十五元と云ふ事と云ふ事
此等事十六元と云ふ事と云ふ事
此等事十七元と云ふ事と云ふ事
此等事十八元と云ふ事と云ふ事
此等事十九元と云ふ事と云ふ事
此等事二十元と云ふ事と云ふ事

目下言法述事
此等事二十元と云ふ事と云ふ事
此等事二十一元と云ふ事と云ふ事
此等事二十二元と云ふ事と云ふ事
此等事二十三元と云ふ事と云ふ事
此等事二十四元と云ふ事と云ふ事
此等事二十五元と云ふ事と云ふ事
此等事二十六元と云ふ事と云ふ事
此等事二十七元と云ふ事と云ふ事
此等事二十八元と云ふ事と云ふ事
此等事二十九元と云ふ事と云ふ事
此等事三十元と云ふ事と云ふ事

沈田甲斐守時辰... 秘為孫... 酒井... 津... 古... 市... 出... 出... 十... 少... 上... 世... 出... 右... 出...

善心大藏方補の代 抄野中書以と 作時
山の上の塔に書きたる 古の通一石に記するの事考
抄解の句に書きたる事

善心大藏方補の代 抄野中書以と 作時
山の上の塔に書きたる 古の通一石に記するの事考
抄解の句に書きたる事

